

県北から再生可能エネルギーを作り出す

行政視察レポート In軽米町

近年は再生可能エネルギー発電の企業を誘致し、山間丘陵地を利用した大規模太陽光発電は697軒、2億8千超と国内有数の発電量を誇ります。鶏糞を活用したバイオマス発電や風力発電と合わせ、再生可能エネルギー生産の取り組みで葛巻町

とともに先頭を進む町でもあります。視察当日は、町内6カ所の太陽光発電所が俯瞰できる折爪岳中腹のミレットパーク等で、山本賢一軽米町長や担当者から事業の概要や今後の発展性や可能性、事業にかける思いなどをお聞きし理解を深めました。また、軽米町では、町議会議員選挙を間近に控えているにも拘らず、松浦光雄議長にも町内を案内いただき、人口減少・少子高齢化・商店街の空洞化・まちづくりなど、葛巻町と共通の課題について情報交換をし、研修を深めることができました。



丘陵地に点在する大規模太陽光発電施設



ミレットパークでの説明

輝くふるさと常任委員会（鈴木満委員長）は、4月17・18日に、鈴木町長も同行し、軽米町を訪問しました。同町では大規模太陽光発電やバイオマス発電に取り組んでおり、その現状を研修しました。

軽米町は、折爪岳と久慈平岳に挟まれて二戸市と洋野町に接し、青森県に接する岩手県北端に位置しています。面積は245平方メートルで葛巻町の半分ほど。人口は8100人余りで、主産業は養鶏業（ブロイラー）やしリアル（雑穀）栽培で、特産品としてサルナシが有名です。



馬淵川栗山橋下河川復旧工事



昨年8月大雨被害のあった垂柳地区洗場沢

復旧が順調に進む 現地で状況を確認

ハード事業を調査

輝くふるさと常任委員会 所管事務調査

輝くふるさと常任委員会（鈴木満委員長）は5月30日から31日にかけて、4年度に完了した事業と4年度から実施している工事場所などの調査のため、町内を視察しました。同日、盛岡広域振興局土木部若手土木センター（富岡治安所長）と「県営工事等に係る意見交換会」を開催。県の道路整備事業などについて意見を交わしました。

町・県工事など 8箇所を調査

今回の調査では、4年度に完成した高齢者福祉センターや若者定住促進住宅、県が進めている災害復旧工事などの状況を調査しました。まず、町道追鍋線道路改良事業については、栗山地区の集落や水道施設へ続く利用頻度の高い路

線となっており、道路の拡大工事などを3年度から実施しており、今年度の完成を見込んでいるとのことでした。

高齢者福祉センターは築35年以上経過した町老人福祉センターの改築を行ったもので、高齢者の交流活動の拠点としての活用ほか、大雨災害時の避難場所としての機能を備えた施設で、1階浴室



新たに建てられた若者定住促進住宅＝田子地区

の利用者は増加しており、広く利用されているとのことでした。町道茶屋場田子線道路改良事業の下町から田子工区では、歩道整備工事を進めており、電柱移設や用地取得などを進めながら、今年度も工事を進めているとのことでした。田子地区に新たに建設された若者定住促進住宅は、オール電化でエアコン完備の快適な施設となっており、入居した若者の町への定住に期待するものです。

岩手土木センターとの意見交換会 県土木センター関係では、現在進めている馬淵川栗山・大沢災害復旧工事、昨年8月の大雨災害により被害のあった垂柳地区の小安孫沢・洗場沢の砂防事業の今後の整備計画等について説明を受けました。調査終了後、県営工事等に係る意見交換会で担当者から、今後の進め方などの説明を受けました。当議会からは、昨年8月の大雨災害の復旧工事について、早期に対応いただいたことに対し感謝を伝えました。また、復旧工事の詳細を問い合わせたところ、垂柳地区は、クマタカの生息地であり、調査を行ったところ、卵を抱えているクマタカを確認したことから、巣立ちを待つて工事を進めるとのことでした。



県との情報交換会（プラトール）

《 県事業の主な内容 》		
種別	工事の内容	工事年度
道路	国道281号流雪溝の補修	R4～R5年度
	国道281号九蔵坂トンネル照明更新	R5年度
河川	馬淵川施設治水施設整備事業（田子）	R2～8年度
	馬淵川護岸復旧（江刈地区）	R4～5年度
	宇別川護岸復旧（宇別地区）	R4～5年度
	山形川護岸復旧（小屋瀬地区）	R4～5年度
砂防	災害関連緊急砂防 小安孫沢	R5年度
	災害関連緊急砂防 洗場沢	R5年度